

やすらぎ金沢通信 2・3月

☆URL <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~yasuka>

☆E-mail yasuka@m1.ishikawa-c.ed.jp

☆TEL 076-243-1612 ☆FAX 076-243-1663



今年の大雪は大変でしたね。街中にはその名残がまだありますが、弥生三月、春は着実に近づいて来ています。まだまだ寒い中、やすらぎ金沢教室の生き物たちの姿からも“春”が感じられるようになりました。プランターの中で雪に埋もれていたチューリップの芽も背伸びをし始めました。また、餌に目もくれず、水槽の中でじっと冬を過ごしたメダカたちもいつの間にか元気に泳いでいます。春の訪れにより、よみがえったその姿にたくましさや生きる力を感じます。「休むことも大切」そんなことも教えてくれているようです。



「やすらぎ金沢通信」も今年度の最終号となりました。本教室でいろいろな出会いがありましたが、生徒一人ひとりが新しい春に向けて、それぞれのペースで歩いていくことを願っています。

1・2月相談状況

4月1日～2月28日（昨年度件数）

月	来所相談	出張相談	電話相談	合計	通室
4月～12月	275(417)	19(17)	202(253)	496(687)	45(69)
1月	33(39)	0(0)	31(19)	64(58)	13(10)
2月	20(33)	0(4)	5(22)	25(59)	11(8)
合計	328(489)	19(21)	238(294)	585(804)	69(87)

※ 1・2月の通室生 1名

1・2月の活動



スイートポテトを作りました。たくさん仕上がりが、甘い香りがいっぱい。お店屋さんのようにでした。



卓球も楽しみました。外は寒い雪でも、身体はポカポカです。



書初め会を行いました。各自好きな言葉を選びました。中には「絵初め」の人もありました。





心とからだを休める居場所として

やすらぎ金沢教室 副室長 向 正一郎

やすらぎ金沢教室では、毎月1回スタッフ会議を行って、相談内容に関して話し合いを行っています。不登校が話し合いの中心ですが、最近は SNS 等におけるトラブルがきっかけとなっている事案もあります。ただ、やはり主な原因は友人関係や学業、家族関係の悩みが依然として多いと思われます。教育に関して、「不易流行」という言葉がよく使われますが、それは不登校に関しても当てはまると思われます。

ミヒヤエル・エンデは1973年に「モモ」を書きました。本の表紙に「時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語」とあります。時間を盗まれる人々は忙しさの中で本当に大切なものを忘れてしまった人たちです。また、モモに関しては次のように書いてあります。「小さなモモにできたことは、相手の話を聞くことでした。簡単なことのように思えますが、本当に話を聞くことのできる人は、めったにいないものです。・・・彼女はただじっと座って、注意深く聞いているだけです。その大きな黒い目は、相手をじっと見つめています。すると相手は、自分のどこにそんなものがひそんでいたかと驚くような考えが、すうっと浮かび上がってくるのです。」

45年前に書かれた児童文学ですが、現代の心の問題や、相談における「傾聴」に通じるようにも思えます。私たちスタッフはこれからも、新たな状況に対応しながら、変えてはいけないものは大切に、不安を抱えた生徒さんの支援に当たっていきたいと思っています。

最後になりましたが、金沢大学准教授原田克巳先生、かないわ病院長岡田淳夫先生、金沢医科大学病院臨床心理士柏谷真由美先生はじめ、やすらぎ金沢の運営に協力していただいた多くの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

医療相談会

今年度、最終月となりました。早めのご予約をお願いします。

第27回 3月 8日
第28回 3月15日

アドバイザー

臨床心理士 柏谷真由美先生(金沢医科大学病院)

いずれも木曜日(14:00~16:00)

SSW(スクールソーシャルワーカー)相談日

毎週木曜日
(13:00~16:30)

アドバイザー

寺西加奈子先生(社会福祉士)

第1週

上野 幸子先生()

第2・3・4週